



鹿屋市農業公社は、農業の振興と農村の活性化を図るため平成10年度に設立されました。農業者の負担軽減を図るための農作業受委託事業を行っているほか、担い手の確保・育成に向けた研修事業を平成12年度から実施しています。研修事業では輝北地区のハウスを活用し、研修期間2年で「施設スプレーギク」の研修を行ってお

農業の振興と 農村の活性化のため

鹿屋市農業公社

研修用ハウスなどを活用して、実践的に研修を行うことができる施設・団体を紹介します。



1. 経営18年目を迎えた西之原さん。経営だけでなく農家の育成に力を入れている。2. 子牛にミルクをあげる時村さん。3. 西之原畜産の牛舎。約100頭の牛が飼育されている。



[研修者]

Workplace training

次の世代へつなぐ。

1 西之原 優 さん

Profile

串良町和牛振興連絡協議会会長を務めており、これまで2人の研修生を受け入れたほか、高校生・農大生の受け入れも行っている。

2 時村 大志 さん

Profile

山中畜産（下高隈町）で1年半の研修後、西之原畜産（串良町有里）で半年間の研修を受講。8月から下高隈町で就農予定。



り、これまでに30人が研修を経て新規就農しています。また、近年は省力栽培が可能な「施設ソリダゴ」の研修生も募集しています。

新たに施設ピーマンの 研修を開始

令和6年度から新たに吾平地区で研修期間を2年とする「施設ピーマン」の研修生を募集しています。1年目に従来（JA肝付吾平町ピーマン部会）の先進農家での受け入れ研修、2年目に研修用ハウスでの独立自営を想定した実地研修を行い、就農に必要な技術や経営スキルを着実に習得できる研修制度となっています。



冬春ピーマン

肝付吾平町農業協同組合ピーマン部会は、東串良町園芸振興会に所属し、管内で栽培される「施設ピーマン」は鹿児島県を代表する農産物「かごしまブランド」産品として指定されています。同部会では8月から苗作りを始めて、9月に苗の植えつけ、10～5月にかけて収穫を行います。ピーマンは本来、夏から秋に栽培される野菜

鹿児島を代表する 冬春ピーマンの産地

肝付吾平町農業協同組合 ピーマン部会

新規就農には営農技術などの習得が必要不可欠ですが、これらは現場での経験を積むことでしか得ることができません。そこで、実際に研修を行っている人たちにお話を伺いました。

研修を経て 新たな挑戦へ

広報 新規就農を目指そうと思っただきっかけは？

時村 16年間海上自衛隊で勤務しましたが、自分の努力次第で経営を左右できる仕事に就きたいと思いい、挑戦することにしました。
広報 約2年間の研修でどのようなことを感じましたか？

時村 2か所の先進農家で研修を受けることにより、それぞれの飼育管理や経営を学ぶことができました。「どれだけ自分でやれるか」が結果に直結する厳しい世界だと思いますが、その反面やりがいも強く感じています。

西之原 研修では、農業の楽しさだけでなく厳しさを感じてもらいたい、日本の食を守る1人として

「牛のため、人のために努力してほしい」という言葉を常に伝えてきました。研修での経験を生かして、今後は自分の経営を切り開いていってほしいです。
広報 これから就農するにあたり、不安はありませんか？
時村 「同じお産はない」と感じるほどに、毎日が勉強ではありませんが、目標である50頭規模の経営を達成できるよう頑張ります。
西之原 私自身も地域に支えてもらい、農家として育ててもらったので、これからは次の世代を育てていきたいと思っています。同じ畜産農家として、一緒に様々なことに取り組み、鹿屋の畜産業を盛り上げていけたら嬉しいです。



西之原さん一家と2人の研修生（後列左・昨年度研修生の坂口 功斗 さん）。いずれ鹿児島を代表する農家になってほしいと語る西之原さん。

ですが、ハウス内で暖房を使用し一定の温度を保つことで、寒い季節での栽培を実現しています。
**担い手確保のため
研修受け入れを実施**

平成4年に部会員2戸・ハウス面積約60アールからスタートし、現在では部会員25戸・ハウス面積約6ヘクタールまで拡大し、販売金額5億円を超える産地に発展しました。また、平成22年からは担い手確保のため研修生の受け入れを開始し、同会での研修を経て新規就農した農家が13戸あるなど、研修受け入れの実績が豊富なのが特徴です。

